

これからの再生可能エネルギーを考える ～ドイツの例を通して見えてくるもの～

再生可能エネルギーは、CO₂を排出せず環境特性に優れているだけでなく、貴重な国産エネルギーでもあることから、政府は2030年での発電比率を25%程度に引き上げる事を目指して普及を図っています。一方、再エネが増えていく事で再エネ賦課金も上昇し続け、その結果、国民の負担が重くなっていくなどの課題も現れてきています。

今回、わが国が固定価格買取制度を導入する際に参考にしたとされるドイツのエネルギー事情に詳しいドイツ在住作家の川口マーン恵美氏をお招きし、ドイツと日本のエネルギー事情の異同をとおして、わが国の再生可能エネルギーの今後のあり方を考えていきます。

- 日時 **平成30年 5月23日(水) 15:00～17:00**
※開場 14:30
- 場所 電気ビル本館 8号会議室
福岡市中央区渡辺通二丁目1-82 電気ビル本館地下2階
- 第1部 基調講演

ドイツの再生可能エネルギーの現状

講師 **川口マーン恵美** 氏 (作家)

【プロフィール】

作家(ドイツ・シュトゥットガルト在住)。日本大学芸術学部卒業後、渡独。85年、シュトゥットガルト国立音楽大学大学院ピアノ科修了。著書に、『住んでみたドイツ 8勝2敗で日本の勝ち』(講談社+α新書)、『ヨーロッパから民主主義が消える』(PHP新書)ほか多数。16年、『ドイツの脱原発がよくわかる本』(草思社)で第36回エネルギーフォーラム賞・普及啓発賞、18年、『復興の日本人論』(グッドブックス)で第38回エネルギーフォーラム賞・特別賞を受賞。現在、『そしてドイツは理想を見失った』(角川新書)が好評発売中。



- 第2部 パネルディスカッション
これからの再生可能エネルギーを考える

【登壇者】



川口マーン恵美氏
(作家)



浅野浩志氏
(電力中央研究所 研究参事)



コーディネーター
東嶋和子氏
(科学ジャーナリスト)

- 定員 160名 (定員になり次第募集を締め切ります)
- 応募 次のアドレスの申込画面からお申し込みください。
<http://www.q-enecon.org/koen/form.php>
※スマートフォンの方は、右のQRコードからもアクセスできます。

